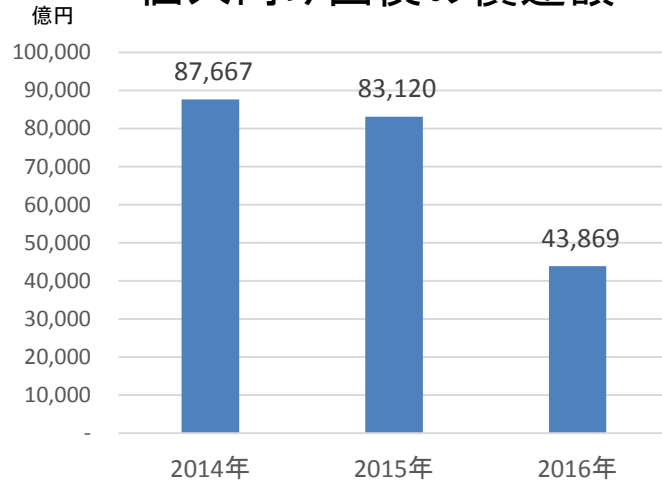


個人の債券投資の受け皿としての社債投資ニーズ

個人向け国債の償還額



財務省:個人向け国債の発行額
推移から作成

平成26年度国債発行の
個人向け当初予定分
2兆5000億円
(個人向け国債2兆1000億円、国債
窓販4000億円)

※財務省資料より

平成25年度住民参加型地方
債発行予定1768.5億円

※10年前は、年間発行額が3000億
円を超えていたが最近は減少傾向

※地方債協会資料より

昨年から10年債の償還が始まり、2014年2015年と
償還が本格化する

国債償還資金の
受け皿

低金利時代における
個人の運用対象

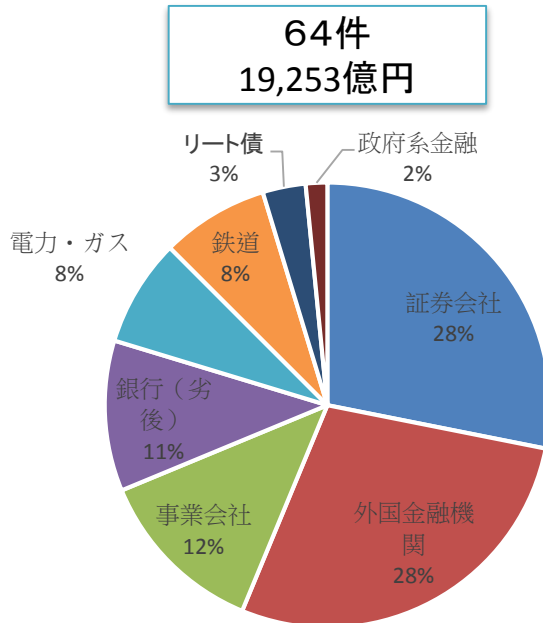
個人向け社債
の投資ニーズ

最近の個人向け社債発行概要

(2014年3月上旬時点)

個人向け社債の発行は増加傾向にあり、ここ10年間では倍増している。最近は年間2兆円程度の発行だが金融機関が増加

2013年 個人向け社債発行者割合



※トレジャーノート・ホームページより作成

証券会社

SBI、マネックスが自社顧客にネット販売を実施、BBB格付け・無格付けで1年債の販売も。利率は1年で1%半ば

外国金融機関

国内リテール証券の販売用に発行するケースが増え、中には地方証券向けに少額発行も。期間は3~7年

金融機関

劣後債の発行が殆どだが、国債と同様に自行での販売が可能。期間10年で利率は1%半ばが多い

事業会社

ソフトバンクの大型発行が目立つ。通常の機関投資家向け発行に比べ、販売コストが増えるが、IR・企業PRの目的で行う発行も

その他

電力や鉄道は過去の乗り換え債が多く、リート債は機関投資家向けでは増加しているが、個人向けでは珍しい

販売者
ニーズが
強い

発行者
ニーズが
強い